

校内研修計画

1 研究主題

自分の考えを広げ深め、確かに表現することができる生徒の育成
－対話を重視した言語活動の充実を通して－

2 研究主題について

【自分の考えを広げ深める】

- ・自分の考えをもったり、確認したりする
- ・新たな情報や考え方、価値に気付く
- ・自分の考えを分かりやすく整理したり、より確かなものにした
- ・多様な考えを比較・分類・関連付けしながら吟味し、新たな自分の考えをもつ

【確かに表現することができる】

- ・自分が感じたことや考えたことを、素直に表すことができる
- ・相手の思いや考えを受け止め、それを尊重したり、自分の思いや考えを重ね合わせたりしながら、自分の考えを表すことができる
- ・事実や自分の考えを、正確に分かりやすく表すことができる
- ・相手や場の状況に応じ、自分の思いや考え、事実を、適切に、かつ効果的に表すことができる

【対話】

- ・他の思いや考えを尊重しながら、他者とコミュニケーションをすること
- ・生徒同士が、互いの思いや考え、その価値や意味を共有するために、話したり聴いたり、議論したりすること
- ・教師や地域の人と話したり、話を聴いたりして、互いの考えを交わすこと
- ・教材や資料、自分自身と向き合い、考える手がかりとすること

【言語活動】

- 多様な言語（言葉、数式、記号、図、グラフ、スケッチ、資料等）を用いて、
 - ・生活や学習活動で感じ取ったことを、表現したり交流したりする活動
 - ・互いに、自分の思いや考えを伝え合い、共有して、理解し合う活動
 - ・事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝える活動
 - ・概念・法則・意図などを解釈し、それを説明したり活用したりする活動
 - ・情報を分析・評価し、結果を整理したり論述したりして、考えを深める活動
 - ・課題についての構想を立てて実践し、その結果を分析・整理したり、整理したことを基に工夫や改善を図ったりしていく活動
 - ・互いの考えを伝え合い、議論することで、自分や集団の考えを発展させる活動

3 主題設定の理由

(1) 本校教育目標から（重点努力事項より抜粋）

- ① 学習規律の徹底を図り、生徒が意欲的に取り組む学習環境をつくる。
- ② 対話を通して共に考えを深め合う活動を重視した授業づくりに努める。
- ③ 校内研修の充実や連携事業等の効果的な活用に努め、実践的指導力の向上を図る。
- ④ 授業と家庭学習を結び付けた指導・支援に努め、基礎・基本の確実な定着を図る。

(2) 生徒の実態から

諸調査の各教科正答率において、昨年度から改善が見られる教科もあるが、多くの教科で県平均を下回る。質問紙調査や校内アンケートにおいても、「授業が分かる」とする割合は改善が求められる状況にあるが、各教科に否定的な印象をもつ理由として「不得意」「分かりにくい」という回答の割合が多い。授業を通して「分かる」実感をもてずにいる生徒が多く、依然として学力定着に課題がある。

一方、一昨年度からの重点である表現力や対話を通した学びに関しては、「自分の考えをもち、発言している」「相手を意識した聞き方や話し方ができる」「話合いで考えが深まっている」とする意識の高まりが少しずつ見られ、改善傾向にあると言える。また、各教科に肯定的な印象をもつ理由として、「考えるのが楽しい」という回答の割合も改善傾向にある。これらのことは、一昨年から実践してきた「対話を通して、共に考えを深め合う活動の充実」が生徒の学ぶ意識を高めた成果の一つと捉える。しかし、教職員アンケートにおいて、「見方・考え方を働かせて考える場面が不十分」「考えが深まる場所に至っていない」「学習したことが定着につながない」という回答も多く、先に述べた「授業が分かる」生徒の割合が低いことと関連する。生徒の意識が高まり、自分の考えを表現する力が少しずつ高まり、多様な考えに触れて学び合う実感を得ている一方で、その実感が深いところでの学習内容の理解や定着に十分につながないことに起因すると捉えられる。よって、全ての生徒が関わり合い、自分の考えを基に議論したり、「見方・考え方」を働かせて吟味したりしながら全体で学びを深めていくための手立てを更に工夫・改善する必要がある。

以前から課題としてきた家庭学習時間については、昨年度の取組を通して改善が見られた。今後は、質の向上に向けた新たな手立てや保護者との連携が必要である。

以上のことから、学力が十分に定着しない原因として、次の3点が考えられる。

- ・「自分自身の考えを整理し表現する力」「他者の考えを生かして考え、表現する力」が育っていない。
- ・考えを深め合うための言語活動の充実に向けた教師の手立てが不十分である。
- ・学習したことを自分の中で再構成し、生きて働く知識・技能としての定着を図る力が育っていない。

また、改善のためには、生徒の「仲間と関わり合いながら学ぶ力」を一層高めつつ、「思いや考えを言葉にして伝え合いながら、共に思考を深めていく」学習を継続して効果的に行うこと、「学んだことを自分自身で整理し、学習成果を実感できる」活動の充実を図ることが大切だと考える。

以上、本校教育目標や生徒の実態を踏まえ、本校の目指す生徒像「自律 協働 学び合い」ができる生徒の実現に向けて、学校全体で育む資質・能力として「自身で判断し行動する力」「他者と関わる力」「主体的に学ぼうとする力」「思いや考えを確かに伝える力」を昨年度と同様に大切にしていきたい。そこで、今年度の研究実践は昨年度の研究を継続し、「対話」を鍵にした授業改善を進めていく。その際、重点実践事項として、「共に考えを深め合う活動の充実」と「まとめ・振り返りの工夫」の2点に絞ってスポットを当て、重点的に実践を行う。この取組により、自分の思いや考えをもち、進んで伝え合うことができる生徒、多様な人との関わりを通して自分の思いや考えを広げ深めることができる生徒、生活の多様な場面において他の思いや考えを受け止め、相手や場の状況に応じて自分の思いや考えを表現することができる生徒の育成を図るとともに、学習内容の確実な定着を図り、学校全体で目指す資質・能力を生徒に育みたいと考え、本研究主題を設定するものである。

<全国学力・学習状況調査 県平均との比較>

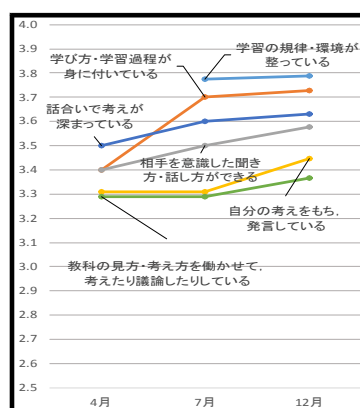
3年	国	数	英
R 1	—	—	—

<秋田県学習状況調査 県平均との比較>

		国	社	数	理	英
2年	R 1	+	—	—	+	—
	H30	++	—	—	(0)	—
1年	R 1	—	—	—	—	—

※ --: ~-5%, -: -5~0%, +: 0~+5%, ++: +5%~

<校内授業アンケート>



4 研究の仮説

学びの各プロセスにおいて「対話的な学び」の視点を大切にした授業づくりをしたり、言語活動において考えを深め合う対話を引き出す工夫をしたり、まとめや振り返りの活動を単元の中で計画的・意図的に工夫して実践したりすることにより、生徒は共に学ぶ楽しさやよさを実感し、自分の思いや考えを広げ深めて、それを確かに表現することができるようになるだろう。

5 研究の重点と重点実践事項

自らの考えを広げ深め、それを確かに表現することができる生徒の育成を図るために、次の2点を研究の重点とする。

- (1) 学ぶ楽しさやよさを実感し、自分の考えを広げ深めようとする姿の育成を目指す。
- (2) 自分の思いや考えを表現する力の向上を目指す。

また、研究を進めるために、次の2点を研究の重点実践事項として焦点を当てて、研究実践を進める。

生徒の価値ある言葉を引き出し、「分かる」実感を伴う理解を図るために

- 自分の考えをもち、対話を通して、共に考えを深め合う活動の充実を図る。
- 学びの実感が得られるまとめ・振り返りの工夫をする。

6 研究の重点に関する共通実践内容

(1) 今年度の重点実践事項

No	重点実践事項	共通実践内容
1	自分の考えをもち、対話を通して、共に考えを深め合う活動の充実	①生徒の言葉を引き出し、生徒同士が共に考えを深め合うことができるような発問の吟味や手立ての工夫を行う。 ②各教科等の「見方・考え方」を働かせて考えたり表現したりできる言語活動の充実を図る。
2	学びの実感が得られるまとめ・振り返りの工夫	①学習内容を自分の言葉で整理する活動やそのための手立てを工夫する。 ②学習成果や変容を振り返ったり、それを他者と共有して相互に評価し合ったりする活動を工夫する。 ※教科の特性に応じて、単元や1時間の授業の中で計画的に実施する。

7 研究を支える基盤となる具体的実践事項

＜研究・研修＞

(1) 授業力を鍛える取組と校内研修の充実

No	具体的実践事項	取組内容
1	「秋田の探究型授業」の 実践と工夫	①「見通し、個の学び、他者との学び合い、まとめ・振り返り」のプロセスを大切に授業づくりをする。 ②問いの形式の課題を検討・吟味し、ねらいに応じた学習課題を設定する。 ③ペアやグループ、全体など、生徒の実態や目的に応じた多様な学習形態を工夫する。 ④学んだことを実感できる振り返りの仕方（自己評価、相互評価、評価問題等）を工夫し、計画的に実施する。
2	教科の枠を超えた研究 授業による授業改善への 取組	①計画訪問（教科等）、学力向上推進班による学校訪問（要請訪問）、要請訪問等を計画的に実施する。 ②重点実践事項に沿った視点から生徒の姿を見取り、それを基に付箋紙を用いた授業分析を進め、各自の授業改善に生かす。
3	相互授業参観による教 師同士が学び合う機会 の設定	①年2回の相互授業参観期間を設定する。（6月，11月） ②授業の参観を計画的に行う。 ③参観者の感想等を研究部でまとめ、配付する。
4	研修の計画的で効果的 な実施	①全体研修会を計画的に実施する。 ②指導主事，教育専門監を積極的に招聘する。
5	諸調査の結果分析を活 用した授業改善	①生徒による授業評価の実施と、その結果を受けての授業改善を図る。（7月，12月） ②県学習状況調査等の諸調査の結果と関連付けた、生徒個々に対する学び直しを行う。
6	指導計画の整備	①各教科・領域等の年間指導計画の見直しを図り、整備する。 ②キャリア教育を推進するため、全職員で共通理解を図りながら、全体計画や年間指導計画を整備する。

(2) 連携研修の推進

No	具体的実践事項	取組内容
1	学区内小・中連携によ る授業参観と情報交換	①全職員が「学習指導」「生徒指導」「児童生徒活動」に分かれて、二つの小学校と協同的な研修に取り組む。（5月，8月，1月） ②小・中教員の指導力向上と、指導の継続性を図るため、相互授業参観や情報共有に取り組む。また、「話し方・聞き方」の系統表やステップを、授業の中で意識的に活用した学習指導を行う。 ③道徳科や総合的な学習の時間、キャリア教育に関して情報を共有し、連携を図る。
2	県総合教育センターと の連携による校内研修 会の実施	①総合教育センター指導主事を要請し、授業改善に資する校内研修に取り組む。

<学習指導>

(1) 学習意欲の向上, 基礎・基本の定着や向上への取組

No	具体的実践事項	取組内容
1	ユニバーサルデザインの視点から行う授業の充実	<p>①学習環境を整える。(教室の整理整頓, 教師が決める学びが成立する座席, 学習予定の掲示)</p> <p>②「聴く・話す」基盤となる学習スタイルを確立する。(天中スタンダードや生活・学習評価表等を活用した学習規律の徹底や学習環境の整備, 各教科ガイダンス資料等を活用した学び方や学習の流れの定着, 聴き方・話し方のステップ等を活用した聴き方・話し方のルールの確立など)</p> <p>③人間関係を大切にする。(生徒指導の三機能を生かした授業, 自由に話せる雰囲気, 信頼関係に基づくコミュニケーション)</p> <p>④教師の話し方, 発問や指示を適切に行う。(正しい言葉や適切な表現の使用, 生徒を認め励ます声かけ, 立ち位置, 「待つ・聴く」姿勢, 「なぜ・どのように」等の問い直しの言葉)</p> <p>⑤効果的な板書計画を立てる。(授業の流れが分かる板書, 大切なところが分かる板書)</p> <p>⑥実態に応じた教材・教具を工夫する。(視覚化, 具体物等)</p>
2	チャレンジテストの効果的活用	<p>①チャレンジテストを計画的に実施する。 (年間3期, 各期各教科1回, 全15回実施)</p> <p>②生徒自身によるチャレンジテストへの取組強化に対する支援を進める。(学習委員会や各学年委員会の活動)</p> <p>③定着が不十分な基礎的・基本的な学習内容(高校入試等の基本問題になるような内容)に焦点を当てて, 指導の徹底を図る。</p> <p>④事前学習が充実するよう支援を進める。(課題の事前配付, 放課後や家庭での学習等)</p>

(2) 家庭学習の量的・質的向上への取組

No	具体的実践事項	取組内容
1	計画的な取組の推進	<p>①部活動終了時刻の厳守と生活指導を行い, 家庭学習時間2時間以上を目標として奨励し, 学習への取組を促す。</p> <p>②自主的な計画的取組を促すため, 生活ノートや長期休業中の計画表を活用する。</p> <p>③放課後等を活用し, 全校一斉のスタディー・デイや学年・学級単位, 個別での学習相談を実施する。</p>
2	適切な家庭学習の課題提示や学び方指導の充実	<p>①授業での各教科の学び方指導と, 「家庭学習の手引き」や「家庭学習ノートの手本」を連動させた指導に当たる。また, 家庭学習ノートの紹介を通して, 自分に合った学習方法発見の一助とする。</p> <p>②授業と連動した適切な家庭学習の課題を, 生活・学習評価表を活用して提示する。</p> <p>③基礎的な内容の繰り返し学習として, 日々の宿題や週末課題を充実させる。</p>
3	生徒による取組の強化	<p>①学年の実態に応じた計画的学習や内容充実のための取組を推進する。(リレーノート, 朝チャレ, 家庭学習ノート提出率や目標時間達成率の掲示, 委員会キャンペーンなど)</p> <p>②ノート紹介に当たっては, 学習委員など仲間からのコメントにより, 取組のよい点を紹介する。</p>

9 研究の全体構想

学 校 教 育 目 標						
自律 協同 学び合い ～堅忍不拔の精神で、夢に向かって努力する生徒の育成～						
学 校 像						
安全で安心して生活できる学校 楽しく活気に満ちた学校 家庭・地域と共に歩む学校						
生 徒 像						
自 律	困難なことにも粘り強く努力を継続する生徒					
協 同	仲間を尊重し思いやることのできる生徒					
学び合い	活動を通して互いに理解し合い、関わりを深め合う生徒					
教 職 員 像						
個々の生徒への確かな愛情があり、個性伸長に情熱を注ぐ教職員 不断の研修により、実践的指導力を高める教職員 使命感と連帯感が強く、地域から信頼される教職員						
経営の基本（天王中教育5原則）						
1 生活＝学習	規律ある安全・安心な生活と学習環境の維持向上に努める。					
2 全校体制	学年，教科を超えた全校体制での指導の連続性を図る。					
3 生徒活動	生徒の自主的な活動を推進し，協同と相互啓発の学校風土を醸成する。					
4 学び合い	協同的な学習と授業研究により，「学び合い」の学校文化を創造する。					
5 積極的評価	よい点や可能性，努力する姿勢を認め励ますなど，積極的な評価に努める。					
※評価・検証 R－PDC Aサイクルに基づく，計画的・組織的な学校運営に努める。						
<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領 ○秋田県の学校教育の指針 ○中央地区学校教育の重点 ○潟上市学校教育の重点目標と努力事項 	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">研 究 主 題</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">自分の考えを広げ深め，確かに表現することができる生徒の育成 －対話を重視した言語活動の充実を通して－</td> </tr> </table>	研 究 主 題		自分の考えを広げ深め，確かに表現することができる生徒の育成 －対話を重視した言語活動の充実を通して－		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態 ○保護者の願い ○本校におけるこれまでの研究及び実践
研 究 主 題						
自分の考えを広げ深め，確かに表現することができる生徒の育成 －対話を重視した言語活動の充実を通して－						
研 究 の 仮 説						
<p>学びの各プロセスにおいて「対話的な学び」の視点を大切にした授業づくりをしたり，言語活動において考えを深め合う対話を引き出す工夫をしたり，まとめや振り返りの活動を単元の中で計画的・意図的に工夫して実践したりすることにより，生徒は共に学ぶ楽しさやよさを実感し，自分の思いや考えを広げ深めて，それを確かに表現することができるようになるだろう。</p>						
研 究 の 重 点						
<p>(1) 学ぶ楽しさやよさを実感し，自分の考えを広げ深めようとする姿の育成を目指す。 (2) 自分の思いや考えを表現する力の向上を目指す。</p>						

10 各種計画

(1) 校内研修計画

月	研修内容	授業者等	主担当者
4	昨年度までの研究と今年度の研修計画		研究主任
5	全国学力・学習状況調査結果の分析		研究主任
	三校連携協議会（推進委員会）→4/22		研究主任
6	相互授業参観①		学習指導部
	全体研修会（生徒指導）		生徒指導部
7	通知表について：評定，評価，書き方		研究主任
8	三校連携協議会		研究主任
	全体研修会（予定；县市連携事業）		研究主任
10	全体研修会（各研修会報告会①）		研究主任
11	中央教育事務所指導主事教科等訪問 ※11月中旬で要請中	3年 社会 2年 家庭 2年 総合	教科主任 研究主任
	相互授業参観②		学習指導部
12	全体研修会（各研修会報告会②） 研究のあゆみについて		研究主任
1	三校連携協議会（全体）		研究主任
2	今年度のまとめと次年度の構想（全体）		研究主任
	学習状況調査結果の分析と今後の課題（全体）		研究主任

(2) チャレンジテスト実施計画

指導の流れ	担当	指導内容等
前回のテスト日	教科担当 学級担任	次回の課題を準備し，学習の仕方やポイントについて指導 課題を配付し，土・日曜日の家庭学習等について指導
）	学級担任	学習状況をチェックし，支援を要する生徒へ声掛け，指導
前日火曜日	学級担任	朝学習の時間における指導
当日水曜日	教科担当・学習指導部	各学年の教科担任が採点・入力。学習指導部が集約・掲示

教科	第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期
国語	5月20日（水）	9月2日（水）	11月18日（水）
数学	6月3日（水）	9月16日（水）	12月9日（水）
英語	6月17日（水）	9月30日（水）	12月23日（水）
理科	7月1日（水）	10月14日（水）	1月20日（水）
社会	7月15日（水）	11月4日（水）	2月3日（水）

11 各種研修講座受講者一覧

(1) 中央教育事務所割当研修事業・講座関係（割当による研修）

講座名	期日・期間	氏名
中学校教育課程研究協議会（数学） （理科） （技術） （家庭） （外国語） （特別活動）	8 / 5（水）	眞壁 豪 佐藤 一平 檜山 信次 藤澤 加奈子 鈴木 理恵子 佐々木 拓人
「性に関する指導」指導者研修会	7 / 3（金）	倉田 泉
安全管理指導者研修会	中止	小松 徹 教頭
交通安全指導者研修会	7 / 10（金）	近藤 秀一

(2) 秋田県総合教育センター研修講座

講座名	期日・期間	氏名	
A 講座 実践的指導力習得研修講座（中学校2年目）	I期5 / 29（金） II期8 / 18（金） ※一回のみに変更	佐藤 一平 鈴木 理恵子	
B 講座	各教科などの指導における言語活動の充実	5 / 22（金）	中川 利通
	これからの運動部活動の在り方	5 / 18（月）	佐藤 一平
	魅力ある特別活動を目指して	6 / 26（金）	檜山 信次
C	希望無し		

(3) 割当によらない研修

講座名	期日・期間	氏名
秋田県小・中・高等学校体育担当者連絡協議会	中止	/
秋田地区小・中講師（臨時）研修会	5 / 22（金）	二部 巧美 高橋 翔平
生徒指導推進会議	6 / 30（火）	近藤 秀一
第1回授業力向上推進協議会（社会科）	7 / 3（金）	石川 徳幸
第2回授業力向上推進協議会（数学科）	9 / 15（火）	佐々木 拓人
第3回授業力向上推進協議会（研究主任他）	1 / 26（火）	中川 利通

●参考資料 各教科等の「見方・考え方」

※学習指導要領(平成29年告示)各教科等解説編より抜粋

	見方	考え方
国語	対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めること	
社会	社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え，地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で，人間の営みと関連付けること（地理的分野） 社会的事象を時期，推移などに着目して捉え，類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること（歴史的分野） 社会的事象を政治，法，経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え，よりよい社会の構築に向けて，課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること（公民的分野）	
数学	事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること	目的に応じて数，式，図，表，グラフ等を活用しつつ，論理的に考え，問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能を関連付けながら，統合的・発展的に考えること
理科	自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点（エネルギー），質的・実体的な視点（粒子），多様性と共通性の視点（生命），時間的・空間的な視点（地球）で捉えること	探究の過程を通じた学習活動の中で，例えば，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること
音楽	音楽に対する感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，生活や社会，伝統や文化などと関連付けること	
美術	表現及び鑑賞の活動を通して，よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や，想像力を働かせ，対象や事象を，造形的な視点（形や色彩，材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり，全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点）で捉え，自分としての意味や価値をつくりだすこと	
保健体育	運動やスポーツを，その価値や特性に着目して，楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え，自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること（体育分野） 個人及び社会生活における課題や情報を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること（保健分野）	
技術・家庭	生活や社会における事象を，技術との関わりの視点で捉え，社会からの要求，安全性，環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること（技術分野） 家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，生涯にわたって，自立し共に生きる生活を創造できるよう，よりよい生活を営むために工夫すること（家庭分野）	
英語	外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること	
道徳	様々な事象を，道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え，人間としての生き方について考えること	
総合	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して，広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会・実生活の課題を探究し，自己の生き方を問い続けること	
特活	各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて，集団や社会における問題を捉え，よりよい人間関係の形成，よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること	